

日本陸連アスレティック・アワード2011 受賞者一覧

1. アスリート・オブ・ザ・イヤー 「2011年においてその活躍が最も顕著であった競技者」

室伏 広治(ミズノ)

第13回世界陸上競技選手権大会(2011/テグ) 男子ハンマー投 優勝。
日本人で初めてオリンピック、世界選手権、両大会において金メダルを獲得。また日本選手権では17連覇を達成した。

2. 優秀選手賞 「2011年において優秀な成績をおさめた競技者」

①赤羽 有紀子(ホクレン)

第13回世界陸上競技選手権大会(2011/テグ) 女子マラソン 5位。
1月の大阪国際女子マラソン優勝、4月のロンドンマラソン日本人最上位。ロンドンマラソンでは自己新記録を樹立。

②森岡 紘一郎(富士通)

第13回世界陸上競技選手権大会(2011/テグ) 男子50km競歩 6位。
日本人として同種目史上最上位。4月の日本選手権50km競歩で初優勝。

3. 新人賞(記者クラブ2名、本連盟1名) 「2011年の活躍が顕著であり、その将来が期待される競技者」

①東京運動記者クラブ 2名

(男子)

岸本 鷹幸(法政大学)／1990年5月6日生

第13回世界陸上競技選手権大会(2011/テグ) 男子400mハードル 準決勝進出。
6月の日本選手権男子400mハードルで初優勝。7月の第19回アジア陸上競技選手権 兵庫・神戸大会代表。

(女子)

中里 麗美(ダイハツ)／1988年6月24日生

第13回世界陸上競技選手権大会(2011/テグ) 女子マラソン 10位
2度目のマラソンであった2月の横浜国際女子マラソンで2位。6月の日本選手権女子10000mでも2位。

②本連盟選出の競技者 1名

堀端 宏行(旭化成)／1986年10月28日生

第13回世界陸上競技選手権大会(2011/テグ) 男子マラソン 7位。
3月のびわ湖毎日マラソンで日本人最上位。
世界選手権では初めての日本代表でありながら、粘りの走りで同種目の日本人7大会連続の入賞を守る。

4. 特別賞 「陸上競技を通じた活動や活躍が広く社会に対して貢献したと認められた者もしくは団体」

①富士通株式会社

1990年、陸上競技部発足。トラック&フィールド競技からマラソン・競歩まで幅広い種目の選手を受け入れ、1991年開催の東京世界陸上から本年8月開催のテグ世界陸上までのオリンピック、世界陸上に日本代表選手を送り出し、オリンピックメダリスト(北京オリンピック・男子4×100mリレー)を輩出した。
富士通スポーツクリニックを開催し、陸上競技の普及に貢献した。

②川内 優輝(埼玉県庁)

公務員として限られた時間の中でトレーニングを重ね、その実績は市民ランナーの代表と称される。大会における真摯な姿は人々に感動を与え、同じ境遇のランナーに夢と希望を与えた。